

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001307		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホームいこい おりおの館		
所在地	大阪市住吉区遠里小野1-4-7		
自己評価作成日	平成23年4月26日	評価結果市町村受理日	平成23年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中に玄関がしまっていることが普通であるGHが多い中、開いていても安心して生活していただいているところ。利用者の方が何年にも亘り日常生活を送っているところ。なぜなのかわかりませんがスゴイことだと自信をもっていえます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の特長のひとつに、日中は玄関の扉を開放している事があげられる。職員に不安は無いかと聞いても、今の状態が当たり前の事として捉えられているところに事業所の介護に対する自信のようなものを感じる。次に利用者は何を求めているかを職員全員が考えている点がある。職員のミーティングでは、関わり方は充分か？、本人の訴えに気付いていないことは無いか？、訴えに素早く応えているか？本人に興味を持っているか？などが話し合わせ、結果として利用者との関わりが増え、関係が深まる事でお互いの信頼関係が生れてきている。宅老所を開設した時からの長い経験に裏づけされた認知症介護ノウハウを若い職員が引継いでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念であると思うが共有できているかどうかは疑問である。このように介護しているから・こうだからという感じの面がある。理念を共有し実践している職員もいるのも事実である。	宅老所時代から介護の心を、「いつもの生活」、「みんなの家であるように」の言葉に表した基本理念を掲げ、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	むこう3軒両隣の範囲と散髪屋・喫茶店・飲食店自治会長さんとの一般的な交流はあるが町内の範囲では交流は難しいのが事実。官庁関係では消防署員(救急隊員がメイン)との交流が深い。	利用者も町会に加入し、町会が主催する高齢者対象の行事(敬老会、ふれあい喫茶など)にできるだけ参加するように心がけてはいるが、場所が遠いので苦労している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイトが2名おり、社協と連携を取りながら、メイト活動を定期的に行っている。(年2~3回)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議があまり実施できていないので単純に反映できていません。	事情で、事業所内での運営推進会議が持てなかったが、ようやく開催ができそうである。	会議開催の定着化を図ると共に、地域密着サービスの推進を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連携を密に取ることはあまりないが利用相談時や研修の機会を利用しながらの情報交換はある。	管理者が中心となって市の高齢福祉担当部門と、研修やセミナーなどを中心に連携を取ることができる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が禁止行為を理解し拘束することなく取り組んでいる。	日中は常時、玄関を開放している事が、当事業所の特徴であるように、職員はその状態が当たり前前のケアであるという認識になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の件も含めて虐待防止関連法について周知徹底に努めており虐待が見過ごされることがないように注意し、防止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度のついて理解や知識として持ち合わせていないの事実。学ぶ機会についても十分ではない。ただ関係者との話し合いや必要に応じての対応は出来ていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と理解を含め納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を管理者・職員又は外部に表せる機会は日常的に設けてある。反映についてはすばやく実施することに努めています。	パソコンや携帯電話、FAXを駆使して家族とのコミュニケーションが取られている。職員は来訪する家族と良好な関係を築くように努めている。いつでも訪問できるアットホームな雰囲気は家族も評価している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会はもちろん、反映又は自由に実施できる体制がある。	管理者及びリーダーと一般職員のチームワークが良好で、職員からの意見や提案が事業所の運営に反映できている職場環境を感じさせる。	介護方法や技術については、OJTが中心となっているが、新しい人材の為には文書化も必要と思われるので書類整備も期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境には十分に気をつけさらに個々の能力や事情に配慮し、さらに職場環境においても自由な発言・提案ができるように努めている。研修や実習・資格取得の支援(勤務の融通等)にも十分に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	きめ細かく一人ひとり機会を設けたり、都度都度教えたり出来ていないが今後の課題という視点も含めながら努力中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時期や期間等は不定期だが、1年を通して交流や勉強会等でネットワークづくりをしながら又は他事業所の方からの意見やアドバイスを取り入れてサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に安心していただける場所になってもらえるように慌てずに関係を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	すべての職員が禁止行為を理解し拘束することなく取り組んでいる。ニーズに応えているとは思わないが家族との関係にも精一杯の対応をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の言葉・家族の情報と客観的な視点を踏めて支援の方向性を見極めています。他のサービスについては必要があれば含めて考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に共に過ごす、暮らしを共にしているという考えの基に関係を気づくことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	そのように考え・ケアできるように関係を築くように家族とも関係を蜜にしています。築いている途上段階のケースもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や場所が出来る限り途切れないように支援していくように努めていますが、現実問題事業所の努力では無理な範囲に頭を悩ませています。	本人の生活歴について家族の協力を得ながら情報収集して、本人が大切にしてきた事柄等を把握するようにしている。職員は利用者に関心を持つようにミーティングでも話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の中で喜怒哀楽が表現しあえる共生者になれるように日々努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者を中心に支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に悩み・検討しながらケアにあたっています。	家族や本人から暮らし方の希望を聞き取っている。本人の訴えの読取り、関わりの方法について職員間で話し合いながら支援方法を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言葉・行動又はケースの情報などから把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々努力し把握に努めています。長期にわたり入居されている方を中心に生活を営むという点について改めて考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームとして考えるを基本に作成していますが計画作成のみで考え作成することがあるのも事実である。	カンファレンスでは利用者ごとの現状、問題点、対応方法、職員サイドの課題を関係者で話し合っている。見直した介護計画書は家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや結果を記入し情報の共有はある程度できているが介護計画の見直しにあまり反映できていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟には対応しているつもりだが既存のサービス提供に精一杯なところがあるのも事実。多機能化の意味と範囲がよく分からない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあるが楽しく豊かな暮らしが出来るようにという点ではまだまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診だけではなく臨機応変に地域の整形・歯科・内科にも必要があれば受診し関係も築けている。	家族や本人の要望を尊重して以前からのかかりつけ医による継続診療にも協力している。契約医療機関の定期往診を受け早期発見、早期対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護婦の協働は基本的にしていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ごく一般的な生活上の範囲入院先とはお付き合いといった感じ。入院時はその時々で病院と話し合いを行い出来るだけ早期の退院につなげています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まさに終末期を考えないといけない状況にあり手探りの範囲かもしれませんが家族と話し合いまた主治医と地域の医院と連携しながらスムーズに対応できるように進めています。	重度化や終末期の対応方針は家族に説明して同意をもらっている。ADLの低下、高齢化に対応して家族やかかりつけ医との連携を十分にとるように考えている。	家族の気がかりな点として終末期への対応があるので、説明が十分でない家族へのフォローが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えての対応や実践力については個々で能力の差はあるが消防主催の救命講習にも数名は受講済み。少しずつ浸透させています。マニュアルはある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練で避難させる方法は周知しています。地域の協力も得られるようにはしています。	防災訓練時には近隣の住民の理解と協力が得られている。定期的避難訓練は消防署の指導を得ながら実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応に努めています。	職員による利用者の声掛けは、やさしく本人のプライドを尊重したやり方で行われていた。トイレ誘導時の羞恥心への配慮もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りしているつもりではあるが現実とは違った感じを受ける対応や間違った働きかけになっている時もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来たり出来なかつたり繰り返し日々繰り返されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ごく普通には出来ていますがここに合わせた支援にはあまり到っていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設当初は十分に出来ていたが現在では重度化もありなかなか実現できていない	食事作りは、ケータリングの利用などではなく職員が心を込めて作ることを介護する心として重要視している。利用者は手作りの温かい料理が食べられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に対応できています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はなかなかできていません。1日2回はするように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツを使わないようにケアをしており排泄の自立むけて日々、検討し努力を重ねています。	利用者の排泄パターンを記録から把握した上で、タイミングの良い誘導を心掛け、快適な自立した排泄習慣の維持のために、職員は食材の選択などを含めいろいろ工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最近ではあるが食事から見直そうと工夫を始めています。ただし玄米御飯は今の現状にそぐわないことが分かったので別の方法を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜の入浴実現には到っていませんが日中は時間を問わず対応しています。	日中入浴時間帯ではあるが、利用者の希望を聞きながら、ゆっくりした入浴をしてもらえるように心がけている。体調に応じ清拭等へも臨機応変に切り替えて清潔保持にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほぼすべての利用者について上手く支援できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては管理から服薬に到るまで間違いがないように徹底した確認作業をしています。用法・用量についても理解し手居ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが徐々に理解しつつあり又考えることが出来るようにはなりつつある。ただ実際に支援につながっていることがまだまだ少ない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来ているほうだと思いますが偏りが観られ、出やすい人になりがちである。	散歩や買い物に出かけるなどして、家に閉じこもりがちにならないように心がけているが、ADLの低下もあり外出支援は思うようにできていないのが現状であろう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら現金を所持している方は1人である。他の利用者の預かり金も基本的にはしていない。必要時は事業所が一時立替しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり無いことではあるが十分に支援できる体制はある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての点について配慮し工夫をしているつもりです。しかし実際には思っている以上に出来ていないところもあるときがある。つもりと実際の是正を図っているところでもあります。	全体的に施設っぽくならないように、「家」としてくつろげるような雰囲気作りに努めている。食堂のテーブルがそのまま団らんの場所となったり、近くにソファを設けて居場所として確保したりする工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分に配慮し工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての利用者では実現できていません。しかしそのような方にも必要であれば家具の購入または寝具等の工夫もしています。	家具を持ち込んだり、飾り物や昔懐かしい写真を置くなど、家族の協力を得ながら利用者が落ち着いて過ごせるような部屋作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最近ではありますが出来ること・わかることを見つけ出し自立した生活に活かそうと考え話し合いを少しずつ始めています。		